

平成 28 年 5 月 19 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 志 太 勤 一
(JASDAQ コード番号 4 8 3 7)
問合せ先 常務取締役 管理本部長 兼 IR 担当
若 狭 正 幸
(TEL. 0 3 - 5 7 8 4 - 8 9 0 9)

特別損失（連結・個別）の計上並びに通期連結業績予想の修正及び 通期個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 3 月期において、特別損失（連結・個別）を計上するとともに、平成 28 年 2 月 10 日に公表いたしました通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、個別業績において、前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について（連結・個別）

(1) 減損損失の計上（連結）

平成 28 年 3 月期の連結決算において、連結子会社が所有する主にレストランカラオケ事業の用に供する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、2,475 百万円の減損損失を特別損失に計上いたしました。

(2) 厚生年金基金解散損失引当金繰入額の計上（連結）

当社の連結子会社である大新東株式会社が入会する「東京都自動車整備厚生年金基金」は、平成 26 年 9 月 24 日に開催された代議員会において、解散の方針が決議されました。この方針に基づき、平成 28 年 2 月 24 日開催の代議員会において、同基金の解散が決議され、その後の解散手続きの進行に伴い、現時点の解散スケジュールに基づく損失見込額について合理的な見積もりが可能な状況となった事から、平成 28 年 3 月期の連結決算において 925 百万円の厚生年金基金解散損失引当金繰入額を特別損失に計上いたしました。

なお、当該連結子会社の負担額の納付につきましては、解散認可後、1 年から 1 年半後となる見込みであります。

(3) 関係会社株式評価損の計上（個別）

平成 28 年 3 月期の個別決算において、「金融商品に関する会計基準」に基づき、当社連結子会社であるシダックス・コミュニティー株式会社及びその他連結子会社 1 社の業績、財政の状況等を検討した結果、当社が保有する当該子会社株式について 3,969 百万円の関係会社株式評価損を特別損失に計上いたしました。

なお、当該関係会社株式評価損につきましては、連結上は消去されるため、連結業績に与える影響はございません。

2. 通期連結累計期間連結業績予想値の修正

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	158,100	△700	△1,200	△1,500	△38.48
実績値 (B)	159,707	△771	△1,089	△7,120	△182.66
増減額 (B-A)	1,607	△71	110	△5,620	
増減率 (%)	1.0	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成27年3月期)	174,461	647	202	255	6.56

3. 通期個別業績値と前期実績値との差異

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前期実績 (A)	12,769	3,064	2,567	△3,636	△93.29
実績値 (B)	9,797	△864	△1,331	△5,150	△132.13
増減額 (B-A)	△2,972	△3,928	△3,899	△1,513	
増減率 (%)	△23.3	—	—	—	

4. 修正及び差異の理由

(1) 連結業績

売上高、営業利益、経常利益につきましては、コントラクトフードサービス事業及びメディカルフードサービス事業にて、同業他社間の競争が激化する中、堅調に推移致しました。また、トータルアウトソーシング事業におきましては、施設管理及び学童保育の受託が好調だったことにより、大幅な増益となりました。他方、レストランカラオケ事業におきましては、長引く景況感の悪化に伴い個人消費が本格回復に至らない中、同業他社との低価格競争や娯楽の多様化による他業種との顧客獲得競争激化による影響等により、営業利益及び経常利益ベースで通期業績予想を下回る結果となりましたが、全体としては概ね通期業績予想通りの推移となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記「1. 特別損失の計上について」に記載しております主にレストランカラオケ事業の用に供する固定資産の減損損失 2,475 百万円の計上及び大新東株式会社での厚生年金基金解散損失引当金繰入額 925 百万円の計上があったほか、主に当社連結子会社において、繰延税金資産の回収可能性について検討を行った結果、繰延税金資産を一部取り崩すこととし、税金費用が 2,765 百万円増加したことにより、通期業績予想値を大きく下回る見込みとなりました。

なお、翌事業年度以降につきましては、引き続き、コントラクトフードサービス事業及びメディカルフードサービス事業、トータルアウトソーシング事業の事業拡大を図り、レストランカラオケ事業の抜本的な改善のための不採算店舗処理を早急に実施するとともに、訪日外国人観光客を対象とした食とエンターテインメントを提供するインバウンド対応型店舗の拡大、それに伴う貸切バス事業の拡大等、事業の選択と集中を進めて参ります。加えて、全事業領域での不採算店舗削減対応と間接経費の抜本的な見直しによる圧縮を図り、収益体質への改善を実現してまいります。

(2) 個別業績

売上高につきましては、主に当社連結子会社からの配当収入が減少したことにより前期実績を下回る見込みとなりました。

営業利益及び経常利益につきましては、主にレストランカラオケ事業に係る連結子会社に対する当社債権等について、関係会社貸倒引当金繰入額の発生等があったこと等により、前期実績を下回る見込みとなりました。

当期純利益につきましては、経常利益の減少に加え、上記「1. 特別損失の計上について（連結・個別）（3）関係会社株式評価損の計上（個別）」に記載のとおり、関係会社株式評価損の計上により、前期実績を下回る見込みとなりました。

以 上